

## 平成 24 年度研究チーム活動中間報告（第 2 回目）

地域文化保全のための伝統的知識の再評価—持続可能な衣・食・住の教育をベースにした環境教育のエリア研究—

No.124 研究代表幹事 岡田元浩（経済学部）

昨年度から引き続き、今年度 2 回の研究会と 2 回の教育ワークショップを開催した。第 6 回研究会（2013 年 10 月 26 日）では、稲田利子氏（山遊舎）、伊藤貴代志氏（やまぞえ小学校）から「服育」の実践的な取り組みについて話題提供があった。稲田氏は奈良で牧場を経営し、環境教育に関心を寄せるきっかけとなったのが、ヒツジやヤギの飼育であった。牧場では 50 頭あまりの牧畜を通して、食肉、乳製品、そして羊毛を採取している。牧畜を通して、それらの食草と環境との関わり、羊毛と衣服との関わりなど、実践的なお話を聞くことができた。さらに、地域における環境教育の取り組みとして、羊毛を使った染色、機織り、そして製品づくりをテーマとしたプログラムの紹介があった。

次に伊藤氏から、地域連携を中心とした小学校におけるプロジェクト型学習の取り組みについて話題提供があった。プロジェクト学習とは、身のまわりに存在する問題を発見し、その問題の解決をするプロセスで、実践的な能力を培っていく学習方法である。はじめに明確なビジョンと具体的で価値のある目標を設定することで、子どもたちの潜在的な能力を引き出す試みである。やまぞえ小学校では、2011 年度に「総合的な学習の時間」の中で山添村の自然を生かし、地域で生産されるものを使った「土産品」を小学生が創作、生産、販売し、得られた収入を東日本大震災の義援金として寄付するという授業を行なった。このプロジェクト学習を通じて、子どもたちは地域の自然を生かし、地場産業を取り入れ、地域の人々と繋がり、子どもたちが「驚くほどの有能さを発揮する機会になった」という実践報告があった。

第 7 回研究会（2013 年 11 月 7 日）では、高原哲史氏（佛教大学大学院）から「コールバーグ理論の学校教育への展開」について若手研究者による発表があった。コールバーグの道徳教育方法論を環境教育へ展開しようとした試みとして、道徳教育の教材（モラルジレンマ資料）についての報告があった。それに対して道徳性の教育的評価、またジレンマを扱いながらオープンエンドで完結する授業形態についてディスカッションが展開された。



第 6 回研究会



羊毛から糸に撚りをかけるプロセスを体験

第6回研究会（2013年10月26日、甲南大学）「服育をめぐって～一本の糸から～」稲田利子氏（山遊舎）、「プロジェクト型学習の取り組み」伊藤貴代志氏（やまぞえ小学校）

第7回研究会（2013年11月7日、甲南大学）「コールバーグ理論の学校教育への展開」高原哲史氏（佛教大学大学院）

教育ワークショップ（1）（2013年12月7日、甲南大学）「国立公園における生物多様性と白川郷自然学校における環境教育」浅野能昭氏（白川郷自然学校）、「日本の参画・協働施策の展開」大久保規子氏（大阪大学）

教育ワークショップ（2）（2014年1月14日、甲南大学）平成25年度 10年経験者研修（共催：兵庫県教育委員会・甲南大学環境総合研究所）“Global Environmental Issues and Implementation of Environmental Education in Thailand” Chinatat Nagashinha 氏（タイ・プラナコーン＝ラジャバト大学環境教育センター）

以上の研究会と教育ワークショップを通じて、①「服育」「食育」「住育」に関する研究会の開催と資料収集、②環境と持続可能性のための教育ワークショップの開催、③タイ・プラナコーン＝ラジャバト大学とTV会議システムを利用した研究会・教育ワークショップの開催、④「伝統的知識」を再評価した環境教育のプログラム開発が行なわれた。